

自然保育「ネイチャーウォーク」

冬の森であそぼう

晝間 初枝(四街道市)

日 時：2026年1月8日(木) 9:30~11:00、天候：晴れ

場 所：八千代台北こどもの森

参加者：ChaCha Children Yachiyo 5歳児24名 保育士4名

担当指導員：小川 渡辺 幸 晝間

真っ青な冬空から差し込む太陽の光はぼかぼか暖かく絶好の日和。林立する木々が長い影を何本も作っている。

大きいイチョウの木へ移動し下から見上げたり、触ってみたり・・・。「あったかい」「ごっごっしてる」と思わず木に抱きつく子もいた。

「木のぼりしようよ」ど投げかけると「梯子がないから無理！」と言いながらよじ登ろうとする。そこで「ヒント！根元から伸びている木の影を伝えていけばてっぺんまでいけるんじゃない」と言うと納得した子どもたちは、木のぼりが得意なリスになって、てっぺんまで一気に駆け登る。木から木へムササビのように飛んだり、鳥のように枝に止まったり、みんなで並んで木の影に隠れたり、元気いっぱい走り回り「影の木登り」でしばらく遊んだ。



影の木登り

次は、「冬の森のわくわく探検」、探検カードを首から下げて出発。すぐ目についた真っ赤なツバキの花は、中を覗き込んで光っている蜜を先生が舐めると「甘い」。みんな舐めたそうだけれど鳥たちのために残しておくことにした。秋に見たクマシデの実に触るとタネが崩れ落ちてくる。木の枝先のつんつんしたものは冬芽。葉っぱを落とした木が生きている証拠の冬芽探しをした。葉っぱがしっかり重なっているアジサイ、ふわふわしたコブシの冬芽は、触ったり、用意した冬芽を一枚一枚剥いで中をのぞいてみたりしてみんな春を待っていることを話した。近くには、モグラが押し上げた土の山がいくつもあり、シャベルで土を除けて穴に竹の棒をさし込むと隣の塚と繋がっていた。交替で穴を掘り、しばらくモグラ塚と格闘した。周辺に広がる「ぺたんこぐさ」をみんなで囲んで、草はぺたんこになって冬を過ごしていることを話した。キンカンやユズの実に触れたり匂いを嗅いだり、たくさんの冬探しを楽しんだ。

公園内は秋よりもたくさんの落ち葉でどこもふわふわだ。掃きあつめられた落ち葉の山を見つけると待ちきれずにジャンプしたり、寝転んだり、もぐったり、落ち葉のシャワーをかけ合ったり、葉っぱまみれになって遊んだ。最後に絵本「落ち葉の下をのぞいてみたら・・・」の挿絵を見ながら、落ち葉の下の虫たちの世界について想像してみた。

少し詰め込みすぎかなとも思ったが「全部楽しかった！」「もう終わり！」と名残惜しそうな子どもたちに私たちが充実感を得た。



コブシの冬芽



虫はどこにいるかな？



落ち葉のシャワー